

岩鼻や「こ」にもひとり月の客

去来

先師上洛の時 去来いはく

「洒堂はこの句を 月の猿と申し

侍れど 予は 客勝りな<sup>ん</sup>と申す。

いかが侍るや。」

上洛：【 】【

申す：【 】【

★確述用法 概要欄参照

【 】【 +「なむん」

】⇕ 【

先師いはく「猿とは何」とぞ。

汝この句をいかに思ひて作せるや。」

Q 芭蕉はなぜ「猿とは何」とぞ。  
と強く驚いたのか？

いかに：【 】【

去来いはく「明月に乗じ山野吟歩

し侍るに、岩頭またひとりの騷客を

見つけたる」と申す。

吟歩【】

騷客【】

先師いはく「己にもひとり月の客

と己と名乗り出づらん」そ

いくばくの風流ならん

己と名乗り出づらん」そ

いくばくの風流ならん

★「ひとり月の客」に対する

二人の考え

去来【】を指す

芭蕉【】を指す

ただ「自称の句となすべし」。この句は

我も珍重して、笈の小文に

書き入れける」となん

自称の句

↓

★「となん」の「なんは何ですか？

《比較

・客勝りなん

↓

・となん

↓

※概要欄「なむ」の識別参照

予が趣向は「なほ」「三等もくだり

侍りなん。先師の意をもつて見れば

少し狂者の感もあるにや。

なほ

Q 「侍りなん」を品詞分解しよう

侍りなん

狂者